

こまちカフェで販売する焼き菓子の製作にご参加頂いているこまちパートナーの窪寺さんは、小学校と幼稚園に通う二人の男の子のお母さんです。そのお子さんがまだ一歳の頃、歩き始めたばかりで目が離せず行動も活発になる中、お出かけの途中に立ち寄れる「こまちカフェ」は、居心地が良く気軽に足を運べる場所だったのだそう。

カフェに立ち寄るきっかけの一つとして、子どもと一緒に参加できる事務作業のお手伝い「もくもく」にも、魅力を感じていらっしゃること。知らない方々と同じ時間・同じ空間で作業をする新鮮さ、子育てをしながら地域社会に繋がる・貢献しているという感覚が、とても充実していく大切なひと時になつているといいます。

こまちぶらすに馴染み芽生えた「本当に自分がしたいこと、私が出来るとは何だろう」という心の問いに向き合い、未来へ向けた第一歩として、ご自身も感じていた「小さな子どもと通える安心感や居心地の良さを感じて欲しい」、そしてその大切なひと時に美味しいお菓子を届けたいという想いを込め、焼き菓子製作に参加されています。

こまちパートナー 窪寺 桃子さん



4



美容室フィックス fix manufacture オーナー
いわさ まさとし
岩佐 匠東志さん

「こまちカフェ」のお隣の店舗で美容室フィックス fix manufactureを経営されている岩佐さん。2021年から戸塚駅西口の商店会「戸塚ほのぼの商和会」(以下商店会)の副会長にも就任し、会が目指す街づくりのもと様々な方面で会長や近隣店舗さんをサポートされています。今回、商店会の取り組みとして、赤ちゃんの誕生やご家族をまち全体でお祝いする「ウェルカムベビープロジェクト」に賛同、戸塚区で赤ちゃんの生まれたご家庭に届けられる「出産祝い」のボックスに、商店会の有志から絵本をプレゼントすることになりました。送られる絵本には会員店舗さんのご協力を得て、一冊一冊に手書きのお祝いメッセージを添えているそうです。

岩佐さんがFixのスタッフ皆さんと一緒にかいめたメッセージや絵は、色とりどりで喜びにあふれた雰囲気。赤ちゃんを迎えたご家族にこの絵本が届いて喜んでいる姿を想像すると、岩佐さん自身も嬉しい気持ちになれるそうです。読み聞かせであったかな時間が生まれることや、赤ちゃんが成長して自分で読めるようになった時に皆さんで書いたメッセージから優しい気持ちが伝わるといいな、との思いで一冊一冊ペ็นを運びます。

これからもウェルカムベビーの取り組みを通して、たくさんの優しさがまち全体で育まれ、連鎖することを願って、今日も美容室に立っています。

3

こまちカフェで使用している色鮮やかなお野菜を育てているのは、戸塚区小雀町で「こま農園」を営む、現在六代目の小間さんご夫婦。江戸末期から百七十年間、地域の方々の声を大切にしながら、新鮮で美味しい野菜を届けるため「直売」という販売の形を続けています。地域のお客様と関係を築くことで、その時々の需要や要望に応じて多品目を少量で生産することができ、フードロスの削減にも繋がっているそうです。

そんなフードロスの削減をはじめ、「今生産者としてできること」を考える小間さんご夫婦は、こまちカフェが国連WFPのゼロハンガーチャレンジに参加した際にはコラボ商品「corna×komaドリンク」で企画実現にご協力くださいました。

この取り組みのよう、ご自身が作り出す野菜が誰かのためになる活動に、今後もどんどん積極的に関わっていきたいと考えているそうです。地域の小学校の児童や障がいを持つ方などの「収穫体験」の申込を受け入れているのも、育てた野菜が太陽と土に育まれていることを伝えたいという思いがあつてこそ。自然の中で大切に作られる小間さんのお野菜には、今も昔も変わらない自然の恵みと温かさがぎゅっと詰まっています。

こま農園

小間 敏史さん
小間 奈津美さん



6



おきなわけん きたなかぐくそん
cotonowa (沖縄県北中城村)
亀山さやかさん

2020年度、こまちぷらすがWAM（独立行政法人福祉医療機構）の助成を受け事業展開した「対話のワークショップ」とファシリテーターの養成講座に参加された亀山さやかさんは、沖縄県北中城村（きたなかぐくそん）でベーカリーカフェ「cotonowa」を営んでいます。

現在五人のお子さんを育てる亀山さんが、沖縄のあたたかい人々の輪に触れ感じる「感謝」や「恩返し」の気持ちを込めた「cotonowa」は、人と繋がりお互いが助け合い支えあう「お互い様」の心を大切にしているカフェです。自家製天然酵母でつくる手作りのパンの販売や、お話し会やワークショップの開催、ハンドメイド作品の販売も行っています。

地域の方々の「好きなもの」や「夢」を持ち寄り集える場所であるとともに、学びの場としての在り方にも力をいれていたいと話す亀山さん。先述の「対話のワークショップ」とファシリテーターの養成講座に参加し、気持ちを言葉にする難しさと大切さを改めて感じたといいます。自分の想いをゆっくりと言葉にする「3枚の葉っぱ」のツールと、大学での学びやこれまでの経験を活かし、今後は地域の方々と一緒に「認知症」や「性教育」についての会の開催や、子育て中の父親のための対話の場作りに向け、動き出しているそうです。

その人らしさ、個性を大事にする「cotonowa」には、壁のない小さなコモンティー「ちやんぶるー(混ざり合う)」な社会が生まれています。

5